1 FOR ALL JAPAN 事務局

ウェブサイトはこちら！

福島第一原子力発電所で働く
みなさんへのお知らせ

2018年

月刊いちえふ。10月

INDEX

■ いちえふのいま
1号機燃料取り出しに向けた対応状況

■ 1Fを守る仲間たち
●重松製作所
船引事業所のみなさん

■ 安全の心得【火気作業編❺】

■ いこいの時間
まちがい探し
プレゼント
福島名産の詰め合わせ

とぴっくす

安全 夜間の運転にはご注意を！

秋になると日没が早くなり夜明けも遅くなります。
夜間は車の速度を出しがちな上に歩行者の発見も遅れるため、安全走行を心がけましょう。

イベント 運動の秋！ ウオーキングしてみませんか。

紅葉が美しい“川前”でウオーキングしませんか。
日時：11月11日（日）9:30～13:00
場所：鹿又川渓谷（いわき市川前町川前）

安全 秋季全国火災予防運動が実施されます

秋の全国火災予防運動は11月9日～15日です。
乾燥注意報がよく出される時期になってきたので、より一層防火に注意してください。

いちえふのいま

切断作業の状況

Xブレース撤去後の状況

1号機燃料取り出しに向けた対応状況

1号機原子炉建屋の南側に堆積しているガレキなどの撤去やその際の使用済燃料プール保護などの準備作業を行うアクセスルートを確保するため、9月19日よりXブレース（X字型の補強鉄骨）4カ所の撤去作業を開始（耐震性確認済）し、9月25日に西側1カ所の撤去が完了しました。

撤去作業中は放射線やダスト管理を徹底し、ダストモニタやモニタリングポストに有意な変動はありませんでした。

引き続き、安全最優先で残り3カ所（東側2カ所、南側1カ所）の撤去作業を進めてまいります。

53 重松製作所
船引事業所のみなさん

作業員の方々、日本のために全面マスクを増産した

1F構内の作業に欠かせないのが全面マスクをはじめとする各種のマスク。そのマスクを製造しているのが、今回紹介する重松製作所です。事故直後には、現在よりもはるかに多くのマスクが必要でした。自社の工場が地震の被害を受けつつも、懸命にマスクの増産を続けたときのことや、1Fで働く方々のご意見をふまえ、全面マスクを改良したときのことを中心に福島県田村市船引町にある重松製作所の船引事業所（工場）でお話をうかがいました。

二見 淳郎さん
株式会社重松製作所 理事
船引事業所長 兼
船引第二製造部長

地震で受けた被害を素早く復旧させ直後からマスクの生産を10倍に増やした

―― どのようなお仕事をされているのですか。

小野さん：普段は埼玉事業所で防じんマスクや防毒マスクなどの開発を行っています。マスクを設計して形にするのが仕事で、私を含めて22人が取り組んでいます。

二見さん：この船引事業所の所長ですが、マスクの製造部長も兼任しています。1990年に船引事業所・第一工場ができたときに係長として着任しました。

中井さん：船引事業所と埼玉事業所の生産や物流部門などを担当しています。また、兵庫県の姫路市にも生産部門があり、その3カ所を見てまわるのが私の主な仕事です。

―― ところで、震災直後はどのような状態だったのですか。

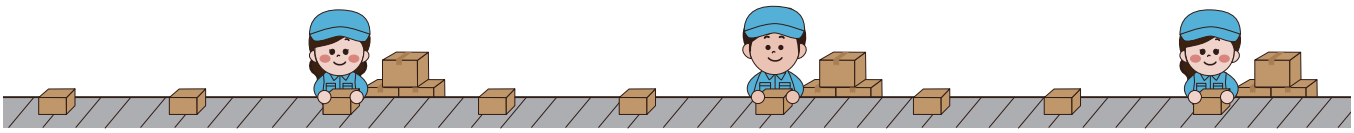
二見さん：1Fの事故の映像をテレビで見て「これは大変なことになった」と感じました。そして、東京電力から「とにかくたくさんの全面マスクをつくってほしい」という連絡があった旨、本社からの情報が入ってきました。

ところが、私たちの工場も、倉庫や設備の一部が壊れてしまい、マスクの資材を作業場に自動で運ぶ仕組みが使えなくなっていたのです。そこで、工場を建設した会社にお願いして、なんとか震災から3日後にはマスクの生産を始めることが

Message メッセージ

廃炉作業は、現在の日本で最も難しい任務の一つだと思います。私たちがつくったマスクで、ぜひ安全に効率的に作業をしてください。

中井 悟さん
株式会社重松製作所
専務取締役
生産担当 兼 第一生産本部長



できるようになりました。

中井さん：私たちの会社は、それまでも原子力発電所の定期点検用などにマスクを納入していました。それまで、全面マスクは月に2000個から3000個を生産していましたが、1Fの事故後から一気に8倍から10倍に増え、最大で3万7000個を生産した月もあります。

「マスクをつくらなければ日本が駄目になる」そんな気持ちでみんなが一致団結した

―― 増産にあたっては、ご苦労が多かったと思います。

二見さん：もう、来る日も来る日もフル回転でした。船引事業所の社員だけでは足りなかったので、臨時で働いてもらえる方を募集したところ、避難所にいる方や、以前2Fで働いていたという方などを含めて、70人以上の方に集まっていただけました。

中井さん：1Fの事故の映像を見て、「これは国難だ」と感じました。一刻も早く、事故を収束させなければなりませんが、そのためには私たちのマスクがどうしても必要です。そういう思いで、もう無我夢中でつくっていたような状態です。

―― どのようにして大変な仕事をやり遂げたのですか。

二見さん：マスクの出来は、1Fで働く作業員の方々の命にかかわることですから、品質の点ではおろそかにできません。

小野 研一さん
株式会社重松製作所
専務取締役
開発設計部長 兼 量産設計部長

作業員の方々が仕事をしやすいようにマスクの改良を重ねている

臨時で働く方々には、ベテランの社員がコーチとしてついて、マスクづくりを丁寧に教えました。

1Fで働く作業員の声を取り入れて安全に作業が進められる全面マスクを開発

―― 現在は、どのようなマスクをつくっているのですか。

小野さん：実際に1Fで当社の全面マスクを使っている方々のご意見を取り入れて、新しい全面マスクを開発しました。これまでのマスクの欠点を改良し、視界が広く、声が届きやすくなり、傷つきにくく、内側がくもりにくいマスクが2016年6月にできあがりました。通常は新製品の開発には2、3年かかるのですが、急いでつくってほしいというご要望があり、1年で完成させました。大変使いやすくなったという評判を聞いて、ほっとするとともに苦労が報われたと感じています。この全面マスクを使うことで、少しでも安全に楽に作業できれば、これほどうれしいことはありません。

お勤め先

株式会社重松製作所

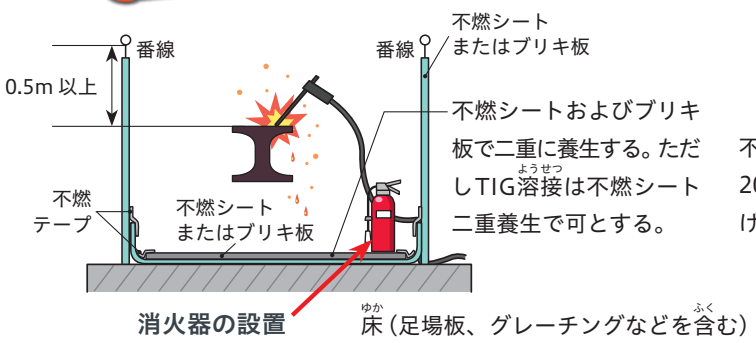
1917年に創業。防じんマスク、防毒マスクなどの製造メーカー。本社は東京で、福島県や埼玉県に事業所や研究所などがある。

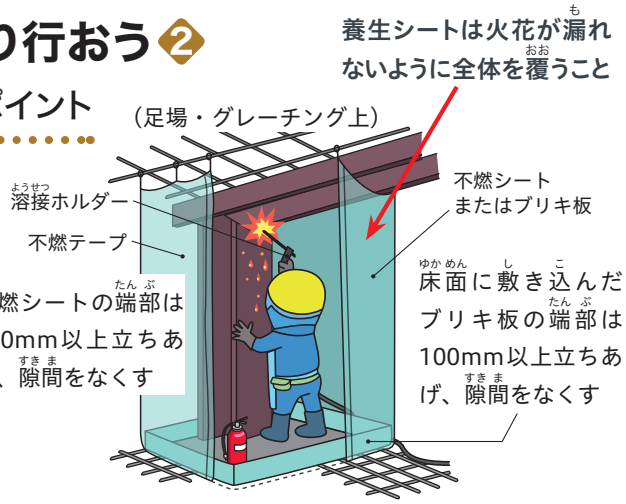
● 続きはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」でお読みください
URL：https://1f-all.jp/interview/53/

安全の心得 火気作業編 5

火気養生をしっかり行おう 2

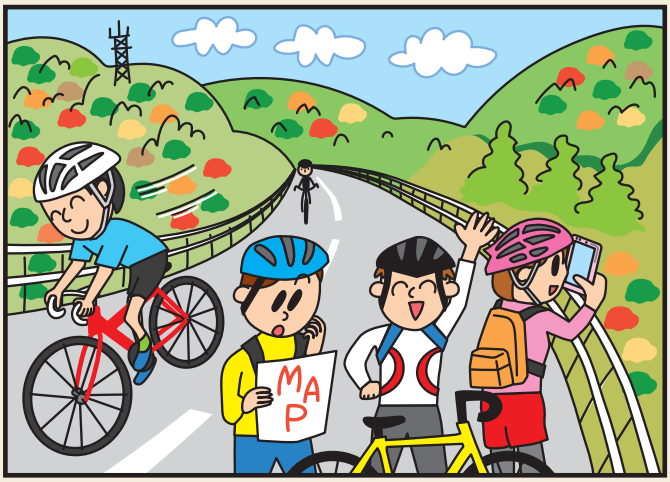
溶接作業時の火気養生ポイント

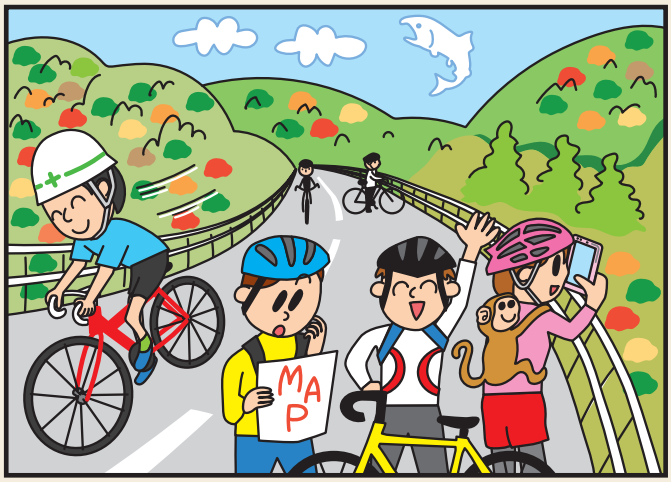




いこいの時間　まちがい探し

今月はまちがい探しです。「ふたばサイクルロゲイニング」の絵が2つ。とてもよく似た絵ですが、まちがいがいくつか隠れています。まちがいが何個あるかわかりますか？





▶応募方法・プレゼントのお受け取り方法

正解した方の中から抽選で5名様にプレゼントをさしあげます。

入退域管理棟、福島第一登録窓口通用口にある応募箱に必要事項をご記入のうえ、ご応募ください。

応募箱設置期間　10月20日～11月10日

＊応募用紙は応募箱横に設置しています。
＊当選者の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
＊答えはウェブサイト「1 FOR ALL JAPAN」新着情報で発表します。

▶今号のプレゼント

福島名産の詰め合わせです。

※賞品は写真と異なる場合がございます

1FOR ALL JAPAN 廃炉のいま、あした

ウェブサイトの紹介

https://1f-all.jp/

福島第一原子力発電所の廃炉事業を進める作業員のみなさんに、働く仲間や応援者のメッセージを伝えるため2015年10月に開設した「1 FOR ALL JAPAN」です。ウェブサイトでも本誌でも、作業員のみなさんを応援していきます。

月刊いちえふ。
2018年10月号

【発行日】2018年10月20日
【発行】
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
廃炉コミュニケーションセンター
コミュニケーション推進グループ
【お問い合わせ先】
Mail:info@1f-all.jp